

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1291000055		
法人名	株式会社 赤門ケアサービス		
事業所名	赤門グループホーム 広瀬ガーデン		
所在地	千葉県館山市広瀬368-1		
自己評価作成日	平成24年1月20日	評価結果市町村受理日	平成24年4月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ACOPA		
所在地	千葉県我孫子市本町3-7-10		
訪問調査日	平成24年2月2日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者が生活の主体者となり個性を発揮できるように、声にならない・上手く表現出来ない心の中の思い行動や表情、ふとこぼれた言葉から察することが出来る様にスタッフの観察力と気づきの目を養うための研修やレポートの提出を行い知識と対応力の向上に努めております。
住み慣れた地域で、これまでの生活に近い形で暮らしていける、生活そのものがケアに支配されるのではなく馴染みの関係の中で自立した生活を送れるように支援しております

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体の医療法人の理事長(認知症専門医)による定期的な往診があり利用者・家族の安心と厚い信頼を得ている。情報通信技術(ICT)の活用を次年度の課題として取り上げ、その準備に取り組んできた。赤門グループのすべての組織間でリアルタイムに情報を共有することにより、健全かつ組織的運営とオンデマンドによる家族への情報提供など先進的サービスの実現を目指していることは特筆に値する。また管理者のリーダーシップのもと職員の教育には特に注力しており、たとえば新人研修として気付きのレポートを毎朝出勤時提出させ、気付きの感性を養うとともに自己啓発を促すなど熱意をもって取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフの入退職もあり、再度レポートやミーティング等で地域密着型としてグループホームが位置づけられた意味や背景の共通理解ができる様な機会を設けている	「利用者の主体性や尊厳を大切にしたりと同時にリスクマネジメントに対する職員の意識や対応能力の向上」を年度目標として掲げその背景にある意味を共有しながら実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩や回覧板、地域の店での買い物等で交流を深め、地域の中での生活者として普通の暮らしを違和感なくしている	自治会に加入し、お祭り前の草刈りや掃除など地域の一員として交流しており、住民や野菜の直売所を兼ねた商店などから親身な協力を得ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地区のカラオケ行事等の参加、地域の店での買い物にホームの入居者と共に参加する事で、認知症になっても住み慣れた地域での生活が継続していけるんだという見本になっていると感じている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年は震災もあり、地域の防災の現状や当日の困り事なども含め情報の共有や災害時の連携の取り方について確認やアドバイスを十分にいただけるなど、とても良い機会になっている。	運営推進会議には市の職員をはじめ、民生委員や自治会の区長の参加を得て実施している。会議で審議された、災害時の安否確認や情報交換方法については携帯のメールアドレスの共有という形で実践に移している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営会議への出席をしていただいたり、長寿の祝い等ではホームの入居者様の長寿を一緒に祝うイベントや広報への掲載等で協力や情報交換を行なっている	運営推進会議に市の介護給付課の職員の参加を得ている。またホームのイベントへの協力や市の広報に長寿の利用者を紹介していただくなどの協力を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修等で意識・知識の共有理解に努めており、安全が確保できない場合のみご家族から同意書を得て対応をしている。玄関は夜間のみ施錠	身体拘束をしない方針であるが、ベッド柵については家族の同意のもとで行う場合もある。玄関には施錠せず、赤外線センサーを利用して事前の声かけや一緒に外出し、さりげなく見守る支援をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング時に研修を取り入れている。入浴や更衣の際のボディチェックや接遇面言葉使い・態度などの権利・尊厳・プライバシーを侵害するような言動にも注意を呼びかけている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ミーティング時に研修を行ったり地域包括との連携を取りながら理解を深めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な時間を設け、事業所の方針や取り組みについても御説明しており、ご家族からの要望や質問にも応えていけるように本部への連絡や調整を行い理解を図っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会、面会時、電話連絡にて様子を伝えると共にご家族の意向を確認、日々のケアやケアプランへの反映をさせている。苦情等の窓口も設けており、入居契約時に説明を行っている	運営推進会議への出席はないが花見、ユニットごと、ユニット合同の年3回の家族会や面会時あるいは電話連絡など機会をとらえて家族の意向を伺い運営に反映させている。	運営推進委員会への家族の参加を含め、利用者・家族との連携強化の工夫をされることを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングにてスタッフや各委員会より議題を提出してもらおう。人事考課面接や日々のコミュニケーションで要望や意見を聞き、改善策を示している	管理者は毎月の職員会議で全職員が必ず発言するように促し、積極的に意見を吸い上げ反映させている。日々のコミュニケーションの中でも意見を言いやすい環境が出来ている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課時にアドバイス、評価を行い、次の目標の設定等話し合いの場を設けている。希望休や有休の要望にも応えられるよう対応している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人の力量にあった役割分担。研修や勉強会への参加や定例会議の場を使ったミニ研修会を行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ内での研修や他事業所の行事への参加で横のつながり強化している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前のアセスメント、利用施設からの情報収集を行い生活歴、人生歴等の情報の共有と今後の方向性・どんな生活を希望しているのかを本人、ご家族と話し合っている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の見学時や契約時に不安や要望を聞き、それに対する対策や対応方法をお伝えしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様の正確な情報収集とグループ内の連携を強め、最適な場の提供ができるように相談、支援を行っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、役割を持っていただき、暮らしを共にする者として認め合い、自己肯定感を強める支援をしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会等他の人の目を気にせずリラックスできるような環境を提供している。また、疎遠関係にある方に対しては、家族会等の参加にて機会を設けている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	住み慣れた地域への買い物等への外出や家族、知人との面会の機会がある	家族や知人の訪問が多く、居室でゆっくり話をしてもらっている。買い物に近くの直売所へ出かけ、世間話をしながら好みのお菓子や日用品を購入するなど馴染みの関係が作られている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を一人一人観察し、トラブルの無いように配慮しながら孤立することなく過ごせるように配慮している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	状況変化、要望の変化により柔軟に対応している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の発するちよつとした言葉、態度を敏感に感じ、声にならない思いを感じられるようケアに取り組んでいる	一人ひとりの日常のかかわりの中で今何が 必要か、何が出来、何をしたいかを敏感に察知できるように努めている。思いを言葉に出せない方がどの様な生活歴や、やりがいを 持っていたかを知り、自己肯定感を大事にした支援をしている。	新しい職員体制に対する利用者の期待も大きい。新しい職員の方も利用者とのなじみの関係を作り上げてゆく中で、より利用者に寄り添ったケアに努めていただきたい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメントやご家族からの面会時に随時、情報の提供を頂きヒントを得ながらケアに活かしていく		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録や申し送り、ミーティング等にて情報の共有をしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	申し送りの中で重要とされる部分に関しては担当者会議を開催 ご家族の意向や本人の状態の情報提供を行い、更新申請やプランの変更・対応方法を変えている	3ヶ月ごとにモニタリングを行い介護計画を作成しているが、変化の有る場合は都度担当者会議を開催し、家族の同意も踏まえて対応している。24時間シートを2ヶ月記録した情報は全職員に共有されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録に残すことは勿論、重要な変化や対応方法に関しては申し送りノート等を活用し、情報の共有と正確な把握ができるように努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同行受診や代行申請等の要望にも応えている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事への参加、回覧板回す、物産所での買い物など地域の方との交流を暮らしの中に取り入れている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関との連携を密にとって必要時には専門的なアドバイスや訪問での診察をうけている	主治医の専門的なアドバイスが有り利用者、家族の信頼が厚い。訪問歯科医による口腔ケアや作業療法士の個々に適応したりハビリを職員が指導を受け、ストレッチ等の支援をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態変化等、常に報告、連絡、相談をし指示を仰いでいる。報告や指示の内容はケア記録に記載、申し送りを行って情報の共有をしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には情報提供を行っている。ケアや看護に活かせる情報の共有をしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	定期的にターミナルに関しての話し合いを行っている。状態変化、悪化時には常に今後の意向に関して家族と確認している	入居時、看取りに関する指針について同意を得ている。必要に応じて「病気になった時の対応」の書式に沿って、どのような終末期を迎えたいかを話し合っている。母体の医療法人、提携病院との連携で緊急時の対応も整っている。看取りについての職員研修も行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	心肺蘇生の講習会への参加や急変時の対応に関しては事例検討・振り返りをしながら対応力を付けている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議での話し合い、協力依頼の場を設け、消防訓練等の結果報告もしている	消防署指導下での避難訓練を実施している。車椅子の優先避難、シーツを使った移動等の実践は利用者も加わり、防災委員会が中心となって実施した。平屋で避難口が多いが、新たに車椅子用のスロープも造られた。地区の住民の協力も得られている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇の向上、プライバシー保護、権利擁護に関する研修などを行いスタッフ指導を行っている	接遇委員会では常に“本人により添った”接遇の見直しがされている。丁寧な言葉が使われ本人が理解できる呼び掛けをしている。トイレ介助での目線を配慮した態勢や腹部マッサージ時のバスタオル使用等羞恥心に配慮した支援をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	買い物支援、外食など日常生活の中で、自己決定の場面を作り、自己肯定感、満足感のある生活を支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調を考慮しながら、要望や気分に沿ったケアを心がけている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの把握をし、衣類のコーディネート等も考え行為介助や可能な方には化粧・お肌やムダ毛・爪の手入れ等にも気を配っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お茶入れ、盛り付け、調理作業など準備・片づけなどにも参加していただいている。一人一人の状況によって、提供する作業内容や付き添い・見守りと支援方法を考慮している	食事は職員の手作りで一人ひとりに合わせた料理が出されている。利用者は盛り付け、調理、後片付け等、自分が出来ることを手伝えるように支援している。また、お寿司屋さんの出張サービスを楽しんだりもしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態にあった食事形態で提供。食事内容、体調や口腔内の状況によって柔軟に形態を変えている。水分は1200を目安に提供し、ゼリーにするなどして、水分量の確保に力を入れている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケア 歯科衛生士を取得しているスタッフがいる為、変化があった時や訪問診察時の窓口として知識を活かしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表の記載にて個々の排泄パターンに応じた誘導とパットの選択を行っている。食事内容や運動を取り入れ、下剤の使用は最終手段としている	排泄チェック表でパターンを把握してトイレ誘導を行っており、座位が取れる方は全員トイレでの排泄が出来ている。水分、食材、運動、腹部マッサージ等の対応で排便を促す効果がでている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排泄状況や排便に効果的な食材を研究。個々にあった食材と運動、マッサージなどにて排便を促している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本の入浴パターンは組んであるものの要望や失禁などにも柔軟に対応している。また、足浴やシャワー浴などで皮膚疾患への対応をとっている	個浴でリフト付き浴槽もあり、入浴の要望には柔軟に対応している。季節ごとに菖蒲湯、ゆず湯などしたり、皮膚疾患の有る方にはイソジン薬による足浴を用意するなど、きめ細かく配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	環境整備と安心感を得られる声掛け、空腹などにも配慮しながら安眠と十分な休息がとれるように配慮している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬手帳や説明書などの保管、薬セット時の確認も注意し行っている。服薬もミス・漏れの無いように2重チェックを行っている 定期処方ごとに薬局との情報交換を行い症状の変化にも注意している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各スタッフが生活歴や人生歴、個々の特徴にあった声掛けや余暇活動を提供している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来るだけ希望に応え散歩や買い物、ドライブなど外出の機会を設けている。回覧板を回しに行く、新年のあいさつなど日常生活の一場面での外出も多い	近くの直売所での買い物に出かけたり、近所との日常的な交流を大切にしている。また、車を利用しての近郊への外出は季節により初詣、勝浦雛祭り、あじさい観賞、海を見に…などの機会を設けている。ただ、利用者アンケートでは外出についての満足度は高くない。	外出頻度の項目については利用者家族アンケートでは、「分からない」「無回答」の割合が6割を占める。現在取り組み中の家族とのコミュニケーションの仕組み作りなどを含め一考願いたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の所持に関しては、安心感や自立心等を考慮し可能な金額での所持をいただいている。トラブルや紛失の無いように定期的にチェックや家族への相談・報告を行っている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	季節の挨拶や誕生日などご家族や知人との交流や希望時にはやり取りが出来る様に支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境の整備、安心で安全 清潔な環境を心がけ、気づきの目とおもてなしの気持ちが環境の整備に表われるように研修やレポートの提出を行っている	ユニットをつなぐ長い廊下はリハビリをしている方が行き交い歩行訓練の場になっている。ホールには大きなソファが置かれ皆で輪になって楽しく過ごしている。日々の掃除は利用者に配慮して静かなモップや拭き掃除で対応している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う仲間作りの支援 特に食事をとる環境には配慮してテーブルの配置などにも気を付けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	慣れ親しんだ家具や物品の搬入や配置をしている	居室入口の表札は一人ひとりわかりやすく掲示され、室内は使い慣れた家具や調度品で居心地良い部屋となっている。得意の編み物や手芸の作品を飾っている方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	アセスメント、センター方式などの書類も取り入れながら、個々の能力に合わせた環境整備や福祉用具の活用・管理ではなで自立支援に向けた取り組みを行っている		